

★「知的障害のある人」と「政治」

司会…今の社会は福祉に限らず、いろいろな問題があります。でも同時に、国として使えるお金が減っている現状がある。そのときに、「私たちの問題にこそ、国の税金を使って、解決されるべきです」と訴えることのできる人たちがいます。また、そうでない人たちもいる。知的障害のある人は後者なんです。

米田…僕も「こういうことがしたい。でも、できないんです」という知的障害のある人の思いを、地域の中に広げていきたいと思っています。特別なことじゃないんです。お酒やコーヒーを飲みたいとかです。でも、それができなかったりする。それはどうしてなのか、何が問題になっているのか、自分たちの体験の中から必要なことは訴えていきたいです。

和田…僕が福祉の現場から、政治の世界へ転身してみてもわかったことがあります。それは、障害のある人の声が議員に届いていない、ということ。

米田…そうなんだ……。

和田…だから、「何が必要なのか」を積極的に声をあげてほしい。以前、選挙のときに「下宿屋」に住んでいる障害のある人が僕の選挙事務所に来て、駅前で大きなマイクを持ち「家賃補助をください」「生活が苦しいんです」と訴えてくれました。そんなふうに政治へ参加するとかね。

司会…それから、障害のある人の政治参加を、支援者がタブー視しないことも大切です。

江口…そうですね。多くの福祉法人の団体の規約を見ると「宗教活動や政治活動は持ち込まない」と書いてあることが多い。政治ってすごくタブー視されているんですよ。障害のある人も「議員は弱者を食い物にする人たち」と思い込んでいる人は多いかもしれません。でも、それは違う。そして、その思い込みは損なんです。政治は、見方を変えると「障害のある人の生活をよくしていくための道具」とも言えるんです。

司会…その通りですね！ あとは、「政治は難しいもの」という思い込みも大きな理由だと思います。

米田…難しいって思うよ。議会で話されることって理解しにくいもの。司会…確かにね。だから、支援者が知的障害のある人に政治をわかりやすく説明すればいいとも思います。全部が全部理解できないにしても、それは、議員さんにも共通して言えることだと思えます。

和田…うん。政治家が市民に理解できない話を議論しても意味がないよね。誰にでも分かるように話すことが必要なんだ。理想を言えば、議員は障害のある人にもきちんとわかるよう言葉で話さないといけない。

小沼 諸石 米田…(頷きながら) そうそう。

和田…それからね、支援者が障害のある人と政治家の「架け橋」になること、これが重要だと思う。支援者が「政治はどんなものなのか」「政治に参加するところなるよ」って障害のある本人に伝えること。

司会…私も同感です。支援者の方には、障害のある人が「どうしてそれを要望しているのか」を発信してほしい。役所の人も議員さんも「要望の理由」を知らないのでは、障害のある人のために動いてくれませんか。もし動いてくれたとしても、そこには心がこもらないですよ。

和田…そのためには、まず支援者と政治家の出会い場が必要だね。市の垣根を越えて。

諸石…俺の友だちは神奈川のいろんな街に住んでいるんだけど、もし議員さんと話せるってなったら、戸塚は戸塚市の議員さん、藤沢は藤沢の議員さんって別々の場所で話さなくちゃいけないんですか？

藤野…市を超えたつながりは議員同士でもあるんですよ。例えば、平塚で困っている人から相談を聞いたら、平塚市の議員をしている江口さんに紹介したりしています。だから、身近な議員を捕まえてどんどんコミュニケーションをとったらいいいと思います。支援をされている方も、障害のある方も、僕ら議員を使いまくってほしいですね！ 呼ばれればいつでも行くので。本当なんですよ!!

諸石…そうなんだ！ もし横須賀に住んでいる友だちに相談されたら、横須賀の議員の藤野さんにそのことを相談してもいいんだ。

藤野…もちろんです！

小沼…僕には横須賀にも平塚にも本人活動をしている知り合いがいます。



神奈川県茅ヶ崎市にあるグループホーム「下宿屋」で座談会は行われました。